



巻頭言

お客様の視点で、 社会の変化に応じた技術開発

専務取締役 谷 哲 郎

長引くデフレ環境下で、景気回復の遅れが、世上ではさまざまな切り口で訴えられています。しかし、そこから抜け出すための明確な方策は、まだ出てきていないというのが実感でしょう。

一方、少子高齢化に伴う2010年頃からの日本の人口減少と社会構造の変化は、大きな弾み車のように日々確実に進行しています。

当社の事業の柱である電力流通分野でも大きな変化があり、インフラ投資の適正化、エネルギー源の多様化、省エネルギーの促進と資源のリサイクルが一段と進んできました。

一方、高度情報化社会への動きは、極めて速いテンポで進展しており、様々な社会活動や私たちの周辺にもコンピュータが行き渡るユビキタスネットワーク社会が、現実のものになろうとしています。

このような社会構造変化の大きなうねりの中で、当社は「人と技術の未来をひらく」をモットーに、常にお客様の視点に立った技術開発に努めてきました。

電力流通分野では、既存設備の効率的利用が求められています。そのため、使用中の機器の予寿命診断技術を開発してきました。本技報では、この開発の一端を紹介します。日本の稼働中の電力用変圧器の30%は既に25年以上使われています。ちなみに米国では同じくこれの50%は既に35年以上使われているといわれており、予寿命診断法の実地適用が盛んに行われています。予寿命診断は、合理的・効率的に設備を更新するために今後大切な技術になるものと思います。

情報化社会の進展では、人とコンピュータとのインターフェースとなるディスプレイの改良が不可欠です。この将来のディスプレイ製造に大きく寄与する薄膜形成技術を開発しており、本技報でその現状をご紹介します。

大きな社会構造変化に対応するには新技術の開発は不可欠です。そのためにも当社はお客様の忌憚のないご意見やご批判を糧として、お客様の視点に立った技術開発を進めてまいります。今後とも一層のご愛顧とご鞭撻をお願い申し上げます。